

携帯ボディパウダー「マシュパフコーワ」の強味・弱味の仮説

♥強味

- ♥ 紫外線によるダメージ（特に夏場は汗ばんで保湿がおろそかになっている）に対応する、春夏期にベタつかないスキンケアパウダー。
- ♥ 剤型は、パウダーであり、サラサラ感やクール感を訴求したものが多くなか、日焼後のダメージ肌に対応する、サマーローションパウダー（カーマインパウダー）的存在。市場にない「新しさ」がある。
- ♥ 店頭でアピール力が増すよう、選べるラインナップ。春夏期商品として取扱ってみよう…という気にさせる。
* 三次元マスクで展開しているカラー戦略を踏襲したイメージが流通関係者にも伝わる。

◆弱味

- ◆ なりたい肌3タイプ（マット肌、キラ肌、ツヤ肌）と機能2タイプ（制汗、美白）の5ラインナップである。実はこのラインナップが主訴である「スキンケア機能」を埋没させている
- ◆ 現在パウダーUVカット剤はSPF50+++が主流であり美肌・美白機能に加え、メイクアップ効果の高いものが市場をにぎわせている。コミュニケーション上の競争力が弱い。
- ◆ ボディパウダーのパフ使用は、携帯用のサイズでは面倒感がある。また、パフ使いは1回当りの使用量も少なく、一度買った商品を何年も持越しているケースも多い（当社調べ）。直接手でボディに塗布できるタイプも一考。
* 粉飛び対応